

令和 6 年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議（第 3 回）議事要録

1 日時 令和 6 年 9 月 26 日（木）午前 10 時～11 時 30 分

2 場所 むさしのエコ re ゾート

3 出席者 村井委員、野村委員、関口委員

4 議事要録

(1)はじめに

(事務局より資料 1 について説明)

- ・武蔵野市環境啓発施設運営会議(第 2 回)議事要録の確認を行った。

(2)開館からの振り返りについて

(事務局より開館からの振り返りについて説明)

- ・今回、出席の委員が少ないので同内容で再度会議を開催してほしい。

⇒(事務局)前向きに検討する。

- ・連続講座への参加者は増えているが、その中からサポーターが増えていかない。むさしのエコ re ゾートを介してサポーターが生まれるプログラムを作してほしい。
- ・後を継ぐ人材探しが課題。連携会議のメンバーに対し、プロジェクト主義で、企業や団体、若者などへ声掛けをして、新しい取り組みを新しい仕組みでできないか。

⇒(事務局)市民参加を考えるうえで最も大切なところだと思っている。現在大人向けの「環境の学校」はテーマが広く、その後のサポーターにつながりにくい状況。高校生・大学生向けでは「むさしの Youth エコフォーラム」というイベントでは約 70 名の環境に興味があり、ゼミや学生団体などで活動している学生が集まる予定。彼らがその後サポーターのような形でコンテンツ作りやむさしのエコ re ゾートの運営に関わってもらいたい。

- ・むさしのエコ re ゾートによるソーシャルインパクトなどは数字で表すことが難しい。教育については将来のことを考えると必要なので、例えば小学校の生活科の授業などを活用して、武蔵野市の 3 域圏ごとに分けて、例えば吉祥寺圏では公会堂や井の頭公園などと位置付け、環境や自然に関することはむさしのエコ re ゾート、歴史・文化に関することはふるさと歴史館など、一度に回れるような仕組みを作って学校に提案するなどがよいのではないか。

⇒(事務局)環境を切り口としたハブ機能について研究していきたい。

(3)その他

- ・事務局より、視察について、第 17 回環境フェスタについて説明した。

以上